

目 次

- 資料1 入学状況
- 資料2 教育学部進路状況
- 資料3 教職大学院開設に関わるアンケート（現職教員用）
- 資料4 教職大学院開設に関わるアンケート（学生用）
- 資料5 平成26年度全国学力・学習状況調査結果分析
- 資料6 要望書

大学院教育学研究科入試状況(平成21年3月修了者～平成26年3月修了者)

専攻・専修	平成20年度			平成21年度			平成22年度			平成23年度			平成24年度			平成25年度			平成26年度			H20～26年度																									
	入学 者数	現職教員 派遣 以外	現職教員 派遣 以外	入学 者数	現職教員 派遣 以外	現職教員 派遣 以外	入学 者数	現職教員 派遣 以外	現職教員 派遣 以外	入学 者数	現職教員 派遣 以外	現職教員 派遣 以外	入学 者数	現職教員 派遣 以外	現職教員 派遣 以外	入学 者数	現職教員 派遣 以外	現職教員 派遣 以外	入学 者数	現職教員 派遣 以外	現職教員 派遣 以外	入学 者数	現職教員 派遣 以外	現職教員 派遣 以外																							
専攻教育専攻	7	5	1	4	1	1	4	1	1	2	10	4	2	1	3	9	1	7	13	2	10	1	10	3	7	8.1	2.3	4.1	0.6	1.1																	
心理学分野	1	1	1	3	1	1	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4	4	1.9	1.3	0.1	0.3	0.1																		
幼児教育分野	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1.1	1.0	0.1																				
小計	9	5	2	9	3	2	6	3	1	2	13	6	2	2	3	10	2	7	15	4	10	1	16	9	7	11.1	4.6	4.3	1.0	1.3																	
特別支援教育専攻	3	3	2	4	3	1	4	2	1	1	6	4	2	2	2	2	2	2	3	1	1	1	7	6	1	4.1	2.9	0.9	0.4																		
特別支援教育専攻	6	7	7	7	6	1	6	6	6	6	5	5	5	4	1	5	4	4	4	4	4	4	4	4	4	5.4			5.1	0.3																	
国際教育				3	3	3	2	1	1	1	4	2	1	1	1	4	2	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1.7	0.7	0.3	0.7																	
社会科教育	5	2	2	4	3	1	4	2	2	2	7	3	3	1	1	2	2	2	3	3	3	2	2	2	2	3.9	2.4	1.0	0.1	0.3																	
数学教育	4	3	1	3	1	1	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2.7	2.3	0.1	0.3																		
理科教育	4	3	1	1	1	1	1	1	1	2	2	1	1	1	4	3	1	1	3	3	3	1	3	1	1	2.4	1.9	0.1	0.3	0.1																	
音楽教育	1	1	1	4	4	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.3	0.9	0.3	0.1																		
美術教育	2	2	2	2	1	1	2	2	2	2	3	2	1	1	1	4	2	1	1	3	2	1	1	2	2	1.3	1.1		0.1																		
保健体育	5	3	2	3	2	1	2	2	2	3	2	1	1	1	4	2	1	1	3	2	1	1	4	3	1	3.4	2.3	0.3	0.3	0.6																	
技術教育				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	0.4	0.3	0.1																		
家政教育	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.3	0.1		0.1																		
英語教育	23	14	2	22	14	1	16	12	2	1	21	12	6	2	1	13	10	1	17	13	3	1	17	12	1	2	18.4	12.4	2.1	1.0	2.4	0.4															
小計	9	11	5	10	9	4	10	7	2	1	8	4	3	1	7	5	2	7	5	2	1	8	5	2	2	9.4	5.7	1.9	1.4	0.4																	
臨床心理学 実践学																																															
合計	51	53	26	48	41	14	52	29	2	5	14	2	42	24	3	3	11	1	53	26	8	7	10	2	37	19	7	1	9	1	49	23	13	4	9	54	32	8	5	8	1	48.6	25.6	6.4	4.7	10.7	1.1

: 高校教諭
 : 保母士
 : 他職教諭(合格後退職)
 : 休業制度利用
 : 長期履修制度利用

※緑字: SM(ストリートマスター)、留学生、社会人、現職教員は内数

教育学部進学状況(平成21年3月卒業～平成26年3月卒業)
 ()内は他大学院進学者数(内数)
 【 】は他大学教職大学院進学者数(内数)

課程	コース・サブコース	領域	H21.3		H22.3		H23.3		H24.3		H25.3		H26.3	
			卒業予定者	進学	卒業予定者	進学	卒業予定者	進学	卒業予定者	進学	卒業予定者	進学	卒業予定者	
学校教育教員養成課程	学校教育基礎コース	教育	17		14		15	1(1)	13	1【1】	16		15	1
		心理	11	1	11	3(1)	9		10	1	10		12	2
	幼児教育コース		13	1	16		12	1	12		11		11	2
		小学校サブ	26	4(1)	19	1	17	4	19	1	15		17	2
	特別支援教育コース			3		4		2		2		3	1	
	教科教育コース	国語	10	1【1】	4		13	2(1)	10	1(1)	7		9	1
		社会	17	2	15		16	2	9		11	3	9	1
		数学	16	2	16	3	14	3	16	2	15	2	15	4【2】
		理科	13	3【1】	13	1	10	1	10	3	17	4(1)	9	1
		音楽	8	3	8		6	1	5	1	7		9	
		美術	3	1	3	2	4		6		2		3	1
		保健体育	11	2	14	1(1)	10	4(1)	13	2	10		12	1
技術		5	2	1		3		3		3		3		
家庭		2		9	1(1)	2		2		4		5		
英語		8		6		4		5	1	1		9	1	
小計		143	22	152	12	139	19	135	13	131	10	141	18	
人間発達環境課程	発達臨床コース		26	6(2)	21	6(2)	29	10(6)	27	10(7)	24	8(3)	33	7(2)
	人間環境教育コース		28	2	26	4(1)	14	1	22	1	23	1	17	1
	国際理解教育コース		28		26	1	20		21		19	1	24	
	小計		82	8	73	11	63	11	70	11	66	10	74	9
合計		225	30(5)	225	23	202	30	205	24	197	20	215	27	

香川大学における教職大学院の開設に関わるアンケート

教職大学院設置準備委員会

(香川大学大学院教育学研究科・香川県教育委員会)

校 種: 幼・小・中・高・特支

経験年数: _____年

性 別: 男・女

以下のあてはまる()の中に○をつけてください。

1 大学院での学びに関心がありますか。

- ①()ある ②()少しある ③()あまりない ④()全くない

2 教職大学院での学びについてお聞きします。

(1)香川大学の教職大学院で学んでみたいと思いますか。

- ①() 大学院修学休業制度*を活用してでも学んでみたい。
②() 県教委からの派遣であれば学んでみたい。
③() 内容等が自分に必要だと感じられれば学んでみたい。
④() 事情がゆるせば学んでみたい。
⑤() 教職大学院ではなく、現行の大学院で学んでみたい。
⑥() 教職大学院には全く興味がない。

*公立学校の教員で、一種免許状又は特別免許状を有する者が、任命権者の許可を受けて、専修免許状を取得するため1年を単位とする3年を超えない期間、身分を保有したまま大学院へ在学し、その課程を履修するための休業をすることができる制度。ただし、休業中、給与は支給されません。

(2)上記①、②、③、④に○をつけた方にお聞きします。リーフレットにあるように3つの分野を開設予定ですが、どの分野で学びたいですか。複数選択可。

- ①() 学校力開発分野
②() 授業力開発分野
③() 特別支援教育コーディネーター分野
④() どの分野でもよい

ご協力をありがとうございました。

香川大学における教職大学院の開設に関わるアンケート

教職大学院設置準備委員会

(香川大学大学院教育学研究科・香川県教育委員会)

2014年10月22日に行いましたアンケートの補足の質問をいたします。

1 所属、コース、学年、性別について、あてはまる()の中に○をつけてください。

- (1) 所属：() 教育学部 () 教育学部以外の学部 () 大学院
(2) コース：() 人間発達環境課程発達臨床コース () 発達臨床コース以外
(3) 学年：() 学部3年次生 () 学部3年次生以外
(4) 性別：() 男 () 女

2 教職大学院での学びについて、あてはまる()の中に○をつけてください。

なお、大学院生の方は、質問(1)の⑤に回答いただく必要はありません。

(1) 教員採用試験に学部生の時に合格した後、教員としての採用が2年間延期され、その間に教職大学院で勉強できる、あるいは、教職大学院を修了した場合には教員採用試験の一次試験が免除されるといった特例があると仮定した場合に、香川大学の教職大学院で学んでみたいと思いますか。

- ①() 教職大学院で、ぜひ学んでみたい。
②() 内容等が自分に必要だと感じられれば、教職大学院で学んでみたい。
③() 事情がゆるせば、教職大学院で学んでみたい。
④() 教員として就職した後に、教職大学院で学んでみたい。
⑤() 教職大学院ではなく、現行の大学院で学んでみたい。
⑥() 教職大学院には全く興味がない。


(2) 上記①、②、③、④に○をつけた方にお聞きします。説明にありましたように、3つの分野を開設予定ですが、どの分野で学びたいですか。複数選択可。


- ①() 学校力開発分野
②() 授業力開発分野
③() 特別支援教育コーディネーター分野
④() どの分野でもよい

ご協力をありがとうございました。

小学校 Check Point

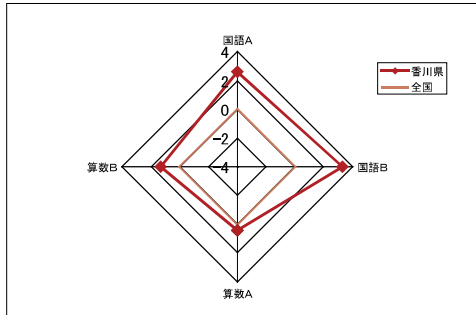
香川県教育センター

 香川県教育センターHPから活用ツールをダウンロードし、自校の結果を参照しましょう。

 香川県教育センターHPから、平成26年度全国学力・学習状況調査報告書をダウンロードし、関連ページを参照しましょう。

□ 全体的な状況は… p.10

教科に関する調査

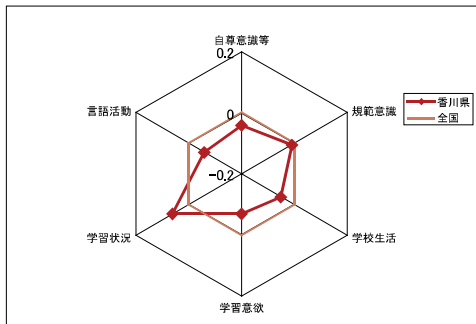


小学校	国語A	国語B	算数A	算数B
県平均(%)	75.5	58.8	78.5	59.5
国平均(%)	72.9	55.5	78.1	58.2
県一国(pt)	2.6	3.3	0.4	1.3



あなたの学校の教科に関する調査結果はどうですか？

児童質問紙調査



小学校	自尊意識等	規範意識	学校生活	学習意欲	学習状況	言語活動
県得点(点)	3.25	3.59	3.23	3.10	3.25	2.84
国得点(点)	3.29	3.60	3.28	3.17	3.19	2.90
県一国(点)	-0.04	-0.01	-0.05	-0.07	0.06	-0.06



あなたの学校の児童質問紙に関する調査結果はどうですか？

□ 質問紙と学力との関係から… P.18,19

質問紙調査と選択肢を選んだ児童の平均正答率

教科に関する調査に相関の高い質問紙調査に注目し、指導の重点とすることもできます。
児童の学習への取組状況を把握して、学校の特徴を生かした学校改善を推進しましょう。

質問番号	質問事項	選択肢	当該選択肢を選んだ児童の平均正答率			
			国語A	国語B	算数A	算数B
7	<言語活動> 友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか	①当てはまる	81.5	64.9	84.3	68.2
		②どちらかといえば、当てはまる	77.1	61.4	80.8	62.7
		③どちらかといえば、当てはまらない	74.2	57.6	77.4	57.7
		④当てはまらない	70.3	51.6	72.1	50.6
		差(①-④)	11.2	13.3	12.2	17.6



P.18,19の中で、あなたの学校の現職教育のテーマや重点としている内容に関連する質問項目はありますか？



香川で課題がうかがえる質問項目において、あなたの学校ではどうですか？

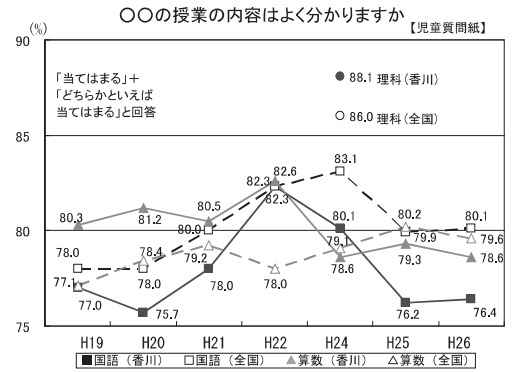
- 6 自分にはよいところがあると思いますか (肯定的回答 県：72.7% 国：76.1%)
- 7 友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか (肯定的回答 県：44.3% 国：49.5%)
- 25 学校に行くのは楽しいと思いますか (肯定的回答 県：84.7% 国：86.6%)
- 50 国語の勉強は好きですか (肯定的回答 県：52.4% 国：59.2%)
- 62 算数の勉強は好きですか (肯定的回答 県：62.8% 国：66.1%)



1 学習意欲を高めよう！ P.26,27

Check 1 <input type="checkbox"/>	あなたの授業の中で、児童の笑みがありますか？
Check 2 <input type="checkbox"/>	児童のノートなどに、「赤〇」がついてますか？
Check 3 <input type="checkbox"/>	授業などで児童をほめて、意欲を高めていますか？

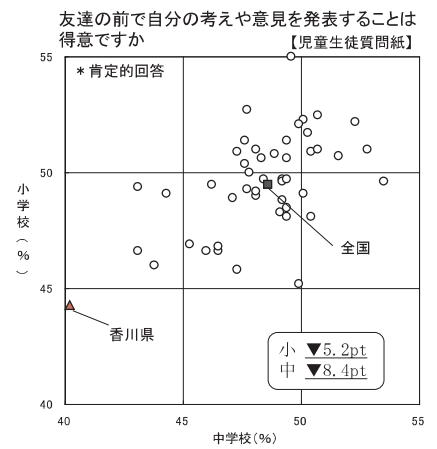
「分かる」「できる」「楽しい」という児童の笑みを、授業の中に出したいものです。学習意欲は、学習内容のおもしろさから生まれるもの、また、正解の〇がついて、できた達成感によってこみ上げるものです。それには教材研究で、先生が学習内容を楽しむことが大切です。



2 児童を生かす言語活動を！ P.24,25

Check 4 <input type="checkbox"/>	児童が聞くだけの単調な授業になっていませんか？
Check 5 <input type="checkbox"/>	児童が活躍する場がありますか？
Check 6 <input type="checkbox"/>	発表した児童の意見を生かしていますか？

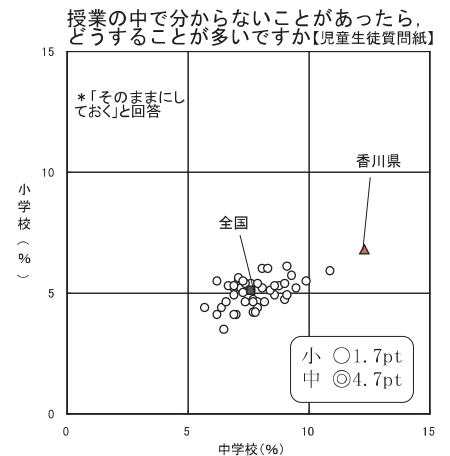
教師が教える、児童が発言する、児童が話し合う、教師と児童で授業内容をまとめるなどの場面を取り入れましょう。言語活動は、友達に話すことで思考力等を育成するだけでなく、活躍の場を与え、児童にやりがいを感じさせることができます。児童の意見をほめたり、板書に位置付けたりして、児童を生かす授業を心がけましょう。



3 「分からない」とき「そのままにしておく」児童へのかかわりを！ P.12~15,102

Check 7 <input type="checkbox"/>	「分からない」児童が、友達と話す場がありますか？
Check 8 <input type="checkbox"/>	「分からない」児童に声かけをしていますか？
Check 9 <input type="checkbox"/>	「分からない」児童の質問をうけてますか？

授業で「分からない」ときに「そのままにしておく」児童の割合は全国の中でも高く、その児童は正答率が低く、無解答率が高くなっています。このような児童への働きかけによって、学習に取り組む姿勢を改善していきましょう。



学習状況調査は「学校ドック」 —学校自身で治療と改善を—

香川県教育センターサポートチームをご活用ください。
調査結果の分析・学校改善に向けた取組についてのご相談や指導主事派遣等ができます。

〔香川県教育センター 教育研究課直通：087-833-4239〕

 P.8

分析・実践のサポートをします！
「活用ツール」で、あなたの学校の

Checkを！



中学校 Check Point

香川県教育センター



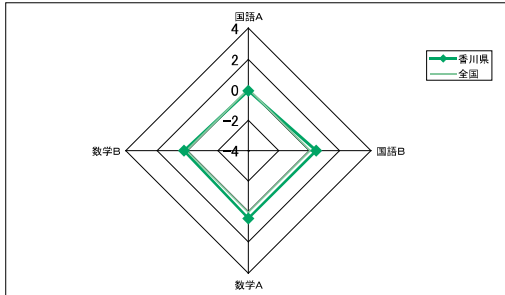
香川県教育センターHPから活用ツールをダウンロードし、自校の結果を参照しましょう。



p.0 香川県教育センターHPから、平成26年度全国学力・学習状況調査報告書をダウンロードし、関連ページを参照しましょう。

□ 全体的な状況は… p.10

教科に関する調査

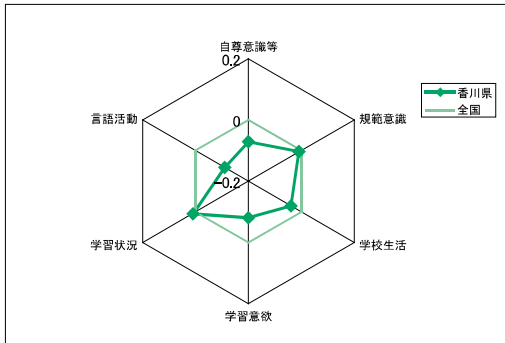


中学校	国語A	国語B	数学A	数学B
県平均(%)	79.3	51.4	67.8	60.0
国平均(%)	79.4	51.0	67.4	59.8
県一国(pt)	-0.1	0.4	0.4	0.2



あなたの学校の教科に関する調査結果はどうですか？

生徒質問紙調査



中学校	自尊意識等	規範意識	学校生活	学習意欲	学習状況	言語活動
県得点(点)	3.01	3.60	3.13	2.88	2.90	2.66
国得点(点)	3.08	3.62	3.17	2.96	2.89	2.77
県一国(点)	-0.07	-0.01	-0.04	-0.08	0.01	-0.11



あなたの学校の生徒質問紙に関する調査結果はどうですか？

□ 質問紙と学力との関係から… P.20,21

質問紙調査と選択肢を選んだ生徒の平均正答率

教科に関する調査に相関の高い質問紙調査に注目し、指導の重点とすることもできます。
生徒の学習への取組状況を把握して、学校の特徴を生かした学校改善を推進しましょう。

質問番号	質問事項	選択肢	当該選択肢を選んだ生徒の平均正答率			
			国語A	国語B	数学A	数学B
7	<言語活動> 友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか	①当てはまる	82.7	56.5	73.4	65.0
		②どちらかといえば、当てはまる	80.8	53.6	70.4	63.0
		③どちらかといえば、当てはまらない	79.6	51.1	67.9	59.8
		④当てはまらない	75.5	46.5	61.5	53.6
		差(①-④)	7.2	10.0	11.9	11.4



P.20,21の中で、あなたの学校の現職教育のテーマや重点としている内容に関連する質問項目はありますか？



香川で課題がうかがえる質問項目において、あなたの学校ではどうですか？

- 6 自分にはよいところがあると思いますか (肯定的回答 県: 61.6% 国: 67.1%)
- 7 友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか (肯定的回答 県: 40.2% 国: 48.6%)
- 27 学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか (肯定的回答 県: 81.0% 国: 84.5%)
- 50 国語の勉強は好きですか (肯定的回答 県: 52.6% 国: 58.2%)
- 62 数学の勉強は好きですか (肯定的回答 県: 52.8% 国: 56.6%)

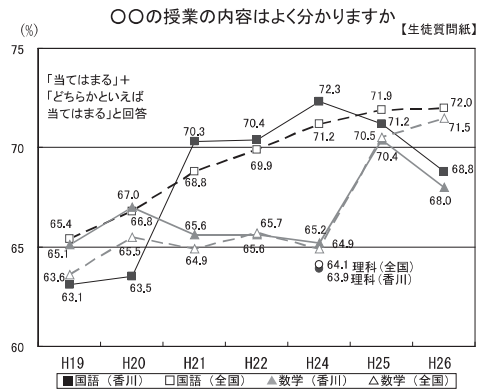


1 学習意欲を高めよう！

P26,27

Check 1 <input type="checkbox"/>	あなたの授業の中で、生徒の笑みがありますか？
Check 2 <input type="checkbox"/>	生徒のノートなどに、「赤〇」がついてますか？
Check 3 <input type="checkbox"/>	生徒と共感したり認めたりして、意欲を高めていますか？

「分かる」「できる」「楽しい」という生徒の笑みを、授業の中に出したいものです。学習意欲は、学習内容のおもしろさから生まれるもの、また、正解の〇がついて、できた達成感によってこみ上げるものです。また、しっかりと生徒をほめて、学習意欲、自尊意識を高めましょう。

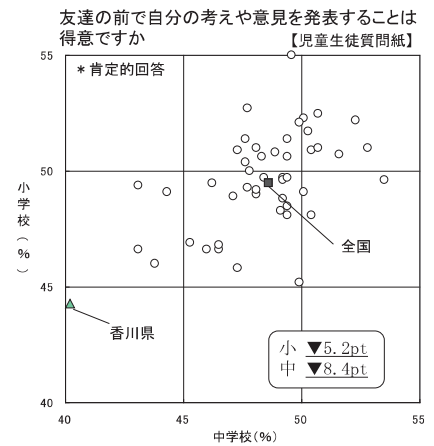


2 生徒を生かす言語活動を！

P24,25

Check 4 <input type="checkbox"/>	生徒が聞くだけの単調な授業になっていませんか？
Check 5 <input type="checkbox"/>	生徒が活躍する場がありますか？
Check 6 <input type="checkbox"/>	発表した生徒の意見を生かしていますか？

教師が教える、生徒が発言する、生徒が話し合う、教師と生徒で授業内容をまとめるなどの場面を取り入れましょう。言語活動は、思考力等を育成するだけでなく、話したり操作したりするなどの活躍の場を与え、生徒にやりがいを感じさせることができます。生徒の意見をほめたり、板書に位置付けたりして、生徒を生かす授業を心がけましょう。

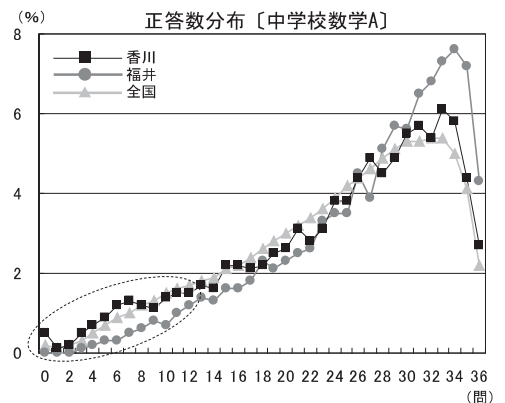


3 「分からない」とき「そのままにしておく」生徒へのかわりを！

P12~15

Check 7 <input type="checkbox"/>	「分からない」生徒が、友達と話す場がありますか？
Check 8 <input type="checkbox"/>	「分からない」生徒に声かけをしていますか？
Check 9 <input type="checkbox"/>	「分からない」生徒の質問をうけてますか？

授業で「分からない」ときに「そのままにしておく」生徒の割合は全国の中でも高く、その生徒は正答率が低く、無解答率が高くなっています。このような生徒への働きかけによって、学習に取り組む姿勢を改善していきましょう。



学習状況調査は「学校ドック」 一学校自身で治療と改善を

香川県教育センターサポートチームをご活用ください。
調査結果の分析・学校改善に向けた取組についてのご相談や指導主事派遣等ができます。
〔香川県教育センター 教育研究課直通：087-833-4239〕

P8

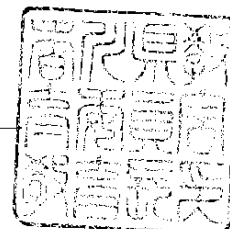
分析・実践のサポートをします！
「活用ツール」で、あなたの学校の
Checkを！



26教義第19377号
平成27年2月23日

国立大学法人香川大学
学長 長尾 省吾 殿

香川県教育委員会
教育長 西原 義



香川大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻（教職大学院）の
設置について（要望）

平素より本県教育の推進に当たり、種々ご高配を賜り厚く御礼を申し上げます。

さて、本県では、熟年教員の大量退職、若年教員の大量採用の時期に直面していることから、ベテランの知見を継承し、若年を育てるためにも、教職大学院への現職教員派遣等を通じて、学校現場の中核を担う力を中堅教員に身に付けさせることが急務となっています。一方で、これらの教員は、最も数の少ない層の教員でもあることから、派遣による学びの内容が本県学校現場の実情に即した相応のものでなければ、現場の理解を得てより多くの者を派遣することが益々難しくなっています。

このため、県教育委員会としては、貴大学に対し、引き続き10名程度の現職教員の派遣を行いたいと考えておりますが、貴大学教育学部において現在検討中の教職大学院が現職教員の派遣先となるためには、その内容が以下の事項に即したものであることが必要不可欠であると考えています。

これまでも、貴大学の教職大学院設置準備委員会に県教育委員会の関係課長が委員として参加して学校現場の実情を伝えるなど、貴大学とは緊密に連携をとっているところですが、今後、貴大学において教職大学院の設置を具体化するにあたっては、以下の事項に即したものとなるよう、強く要望いたします。

I 教職大学院全体に共通する事項

1. 県教育委員会推薦者に対する1年短期履修制度の創設と実習の一部免除

大量退職・大量採用の局面において、県教育委員会としては、中堅教員を教職大学院で研修させ、その成果を学校現場に還元させることが急務であると考えておりますが、これらの教員は最も数の少ない層の教員でもあり、現在、学校現場において担任や各種主任等として学校を支えているこれらの教員を、2年間、担任等と両立できない形で派遣することは、上述の通り、益々難しくなっています。

さらに、夜間等にも業務があり、勤務時間を問わず生じる事案に担任自身が各種主任と連携して即座に対応することへの保護者や地域等の期待が高い等の本県の実情を踏まえると、大学院設置基準第14条の特例を適用したとしても、担任等の職務を軽減しない限り、2年目にお

いて有効な学びを保障することは益々厳しい環境になっております。一方、これらの教員に担任等を任せずに学校を運営することは、校内における中堅教員の層の薄さゆえ、校長としては極めて厳しい状況にあることから、県教育委員会としては、1年間の短期履修制度がなければ、県教育委員会として派遣したい数の現職教員を派遣することが一層困難になると考えています。

他方で、県教育委員会としては、県教育委員会が推薦した現職教員に対し、1年間の教職大学院修了後、学校に配置された初年度に、教職大学院での就学の成果を用いて当該配置校の課題解決に実践的に取り組ませ、県内の教員や学生等を対象とした県教育委員会主催の1000人規模の発表会でその結果を発表させることで、質の高い実践的取組みを確実に行わせることにしたいと考えています。これにあたり、修了後の1年の間、当該配置校における実践的取組みに対し、当該教員の担任等の業務と両立させることを前提とした柔軟な形で貴大学からの指導等を受けられるのであれば、教職大学院在学中の実習を一部免除する制度とすることで1年短期履修制度を創設したとしても、修了後の実践的取組みを伴うこの制度を通じた総体としての学びは、2年制の教職大学院における就学に相当するものに本県ではなりえると考えています。

修了後は、大学院で身に付けた高度な省察力や中核教員であるという自覚をさらに磨き、県内各地でリーダーとして身に付けた力量を最大限に発揮できるよう、管理職登用を含めた人事配置に努めていきたいと考えています。

このため、県教育委員会として派遣したい数の現職教員を教職大学院に派遣するために、県教育委員会が推薦する現職教員について1年間の短期履修制度を創設するよう要望します。また、1年間の短期履修と高度の専門性に基づく実践的指導力の育成の両立が図られるよう、県教育委員会においては、県教育委員会が推薦する現職教員に対し、修了後の初年度に実践的取組みを確実に行わせる仕組みとしますので、貴大学におかれては、そのことを踏まえ、1年間の短期履修制度の創設にあたっては、教職大学院在学中の実習の一部免除と、修了後の貴大学からの指導等に関する柔軟な仕組みの構築をなされるよう要望します。

2. 特別な教育的支援を必要とする通常学級在籍児童生徒に対する指導力育成

特別な教育的支援を必要とする児童生徒が増加していることに加え、特に、知見を有するベテランが大量に退職する局面を迎えている本県においては、特別な教育的支援を必要とする児童生徒の指導に関する実践的な知識・技能を教員に身に付けさせることが急務となっています。とりわけ、発達障害の可能性のある児童生徒の多くが通常の学級に在籍していることや、子ども一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援を行う観点から教育を進めていくことは障害のある児童生徒だけでなく全ての児童生徒にとっても良い効果をもたらすことができるものであることを踏まえると、通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒の指導に関する実践的な知識・技能を全ての教員に身に付けさせていくことが、本県の総合的な授業力・教育力を向上させる上で必須であると考えています。

貴大学教育学部におかれては、特別支援教室「すばる」を中心として、これまでに、特別な教育的支援を必要とする児童生徒の指導に関する実践的な研究を重ねられていることから、県教育委員会としては、教職大学院に現職教員を派遣することで、貴大学のこれまでの実践研究等を基盤とした、通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒の指導に関する実践的な知識・技能を、派遣者全員に身に付けさせたいと考えています。

このため、教職大学院に派遣する現職教員が共通して、通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒の指導に関して実践的に学ぶカリキュラムとなるよう、要望します。

3. 生徒指導と道徳教育に関する指導力育成

全国学力・学習状況調査等の結果によると、本県の児童・生徒は、全国上位の学力を持ちながらも、自尊意識等が非常に低い、という状況にあり、自尊意識等の向上に向け、生徒指導に関する高い指導力や、生徒指導の観点を取り入れた学習指導に関する高い指導力を全ての教員に身に付けさせることが喫緊の課題となっています。

また、「特別の教科」としての方向性が示された道徳教育に関しても、自尊意識等の向上に資するものをはじめとした実践的な指導方法や高度な専門性を身に付け、各学校全体の生徒指導や道徳教育の中核を担える教員をできるだけ多く、できるだけ早期に養成することが課題となっています。

貴大学教育学部におかれては、これまでも、生徒指導や道徳教育に関する研究を専門として実践的に取り組まれてきた実績があることから、県教育委員会としては、教職大学院に現職教員を派遣することで、貴大学のこれまでの実践研究等を基盤とした生徒指導と道徳教育に関する派遣者全員の実践的指導力を向上させたいと考えています。

このため、教職大学院に派遣する現職教員が共通して、生徒指導と道徳教育に関して実践的に学ぶカリキュラムとなるよう、要望します。

II 教職大学院の設置コースに関する事項

1. 組織・経営に関する実践的指導力を備えた人材の養成

本県においては、ベテランの大量退職の時期をむかえ、現在の中堅教員は、遠からず、管理職等として学校を支え、学校全体の教育力を向上させる役割を担うことが期待されています。学校全体の教育力を向上させるためには、学校組織に関する実践的指導力に加え、学年団経営や学級経営に関する実践的な指導力等が必要ですが、本県においては、これまで、ベテランの層が厚かったために、多くの場合、中堅教員が各種主任等を経験することが少なく、知見・経験の継承が十分になされないままベテランが大量に退職するという状態にあり、中堅教員に組織や経営に関する実践的指導力を身に付けさせることが急務となっています。

また、ベテランの大量退職に伴い、採用後即座に担任を担えるだけでなく、将来の中核的リーダーとなれるような特に優れた学級経営実践力等を備えた新任教員を必要としています。

このため、教職大学院において、学校全体の教育力の向上に向けて、学校組織や学年団経営、学級経営等に関して実践的に学ぶコースを設けるよう、要望します。

2. 学校全体の授業力向上に向けた実践的指導力を備えた人材の養成

全国学力・学習状況調査等の結果によると、本県の児童・生徒は、全国上位の学力を持っているものの、「授業内容が分かる」と回答する児童・生徒に比して「勉強が好き」と答える児童・生徒が少ないという状況にあり、「分かる」だけでなく、児童・生徒の学習意欲を喚起する授業に改善することが喫緊の課題となっています。

また、同調査の結果によると、前述の通り、本県の児童・生徒は自尊意識等が非常に低い状況にもあり、生徒指導の機能を取り入れた授業を展開することも喫緊の課題となっています。学校全体の授業力を向上させるためには、教材開発力や授業構成力に加え、子どもを理解する

力や教科の本質を踏まえて授業開発を行う力等が必要であり、本県教員のこれらの力をさらに高度かつ実践的なものにすることが急務となっています。

このため、教職大学院において、学校全体の授業力の向上に向けて、教材開発や授業構成、子ども理解や教科の本質を踏まえた授業開発等に関して実践的に学ぶコースを設けるよう、要望します。

2. 特別支援教育コーディネーターの養成

特別支援学級が増加する中、県教育委員会としては、特別支援学級在籍児童生徒の校内支援体制の整備や特別支援学校や関係機関との連携の中核的役割を担う人材（特別支援教育コーディネーター）がその機能をさらに充実させることが急務であると考えています。

貴大学教育学部におかれては、特別支援教室「すばる」を基盤として、これまでも特別支援教育コーディネーターを養成されていますが、県教育委員会としては、心理検査や子どもの特性、個別の指導計画等について教職大学院において実践的に学ぶことで、特別支援教育コーディネーターの養成が一層充実するものと考えています。

このため、教職大学院において、特別支援教育コーディネーターを実践的に養成するコースを設けるよう、要望します。